

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<p>・昨年度は、朝の会や帰りの会の時間帯を利用して「読み取りタイム」や「ライティングタイム」を利用して読む力や書く力の育成に取り組んだり、授業時においてICTを活用した分かりやすい授業を展開したりして、生徒一人一人の学力向上を目指した実践を行ってきた。その結果、学校評価の生徒の評価項目の「ICT機器を活用した授業が自分の力につながっていると思いますか」については、ほぼ全校生徒が肯定的な回答で答えている。しかし、依然として基礎的・基本的な学力の定着不足が各教科で伺え、各教科の授業において日々の取り組みの見直しが必要である。</p> <p>・昨年同様に引き続き生徒の困り感や悩みは多岐にわたっている。発達支持的及び課題予防的な生徒指導に取り組み、いじめ防止・早期発見・早期対応、教育相談や特別支援教育の充実に組織的に取り組む必要がある。</p>
<b>2 学校教育目標</b>	<p>「夢と誇りをもち、自ら学び、仲間とともにしなやかに伸びる生徒の育成」</p> <p>目指す生徒像</p> <p>①「心豊かで、社会性のある生徒」 ②「自ら学び、共に高め合う生徒」 ③「心身ともに明るく健康な生徒」</p>
<b>3 本年度の重点目標</b>	<p>生徒の教育活動全般を通じた立腰教育の充実および生徒会活動「AJISAI運動」の活性化</p>

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者
(1) 共通評価項目				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○(学校独自重点取組) 学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○(学校独自成果指標) ○「授業が分かりやすい」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上、「わかりやすい授業展開に努めている」と肯定的に回答する保護者の割合80%以上 ○「学習タイムに取り組むことで、家庭学習習慣が身に付いた」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上、保護者80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業実践及び電子黒板やタブレット等の利活用推進 ・家庭学習の習慣づけ及び内容充実を目的とした週4回の全校一斉「学習タイム」の設定と実践 ・リーディングDXスタイルを踏まえた授業実践。	・研究主任 ・学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手の気持ちを考えた行動や発言ができています」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上、保護者80%以上	・日頃の教育活動全般を通じて、生徒の自己肯定感を高めるような声かけを行うと共に特別活動等を通じて互いに認め合う取り組みの実践 ・「AJISAI運動」の推進 ・「すてきボード」など生徒をほめる場の設定 ・「特別の教科道徳」の指導方法工夫改善	・生徒指導主事 ・生徒会担当 ・学級担任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「安心して生活できる学校だ」と肯定的に回答する生徒・保護者の割合90%以上 ○「いじめのない学校だ」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上、「子どもがいじめや差別をしないことを意識して生活を送っている」と肯定的に回答する保護者80%以上	・学校生活アンケートの毎月実施及び年2回のいじめ調査の実施 ・年2回の教育相談週間及びQ-Uテストの実施 ・生徒指導部会、教育相談部会、特別支援教育部会の定例開催による情報共有及び取り組みの改善・充実 ・いじめの定義等に関する研修会の実施 ・ネットいじめ防止に関する研修会を1回	・生徒指導主事 ・教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○県教育の合言葉「ほめるからはじめる、はじまる」を意識して教育活動を行っている」と回答する職員の割合100% ○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ◎○「将来の夢や目標を持っている」に	・県教育の合言葉「ほめるからはじめる、はじまる」の職員への周知徹底及び実践 ・すてきボードや授業の中での「本日の素敵さん」など、ほめる場の設定と賞賛の声かけの工夫 ・職場体験学習や職場見学、地域人材	・生徒指導主事 ・教育相談担当
●健康・体づくり	●(学校独自重点取組・任意) より良い友達関係を築くための取り組みの充実	●「学年集会での先生の講話や取り組みはより良い友達関係を築くために役に立つ」と回答する生徒の割合80%以上	・より良い友達関係を築くための教職員の講話の実施 ・グループエンカウンターを活用した集団づくりの実施(校内研修等も含む)	・学年主任 ・人権・同和教育担当
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数10日以上	・ICTの積極的利活用による業務効率化の推進 ・出勤管理システム活用による時間外勤務時間の可視化と結果に基づく面談の実施 ・勤務間休憩11時間の「勤務間インターバル」の導入および長期休業期間中の	・教頭
●特別支援教育の充実	○(学校独自重点取組・任意) 「働き方改革」意識向上と実践	○(学校独自成果指標・任意) 部活動休養日、定時退勤日(週1)、年休取得推進日の設定・徹底	・定時退勤日の設定 ・部活動活動方針の見直し(活動時間及び長期休業期間中の活動自粛期間設定)	・教頭
	○(学校独自重点取組・任意) 「特別支援教育」の充実にに向けた取組の実践	○(学校独自成果指標・任意) 個別的教育支援計画、教育計画を活かし、一人ひとりに適切な支援の実施	・特別支援教育部会の定例開催による情報共有(個別のケース会議も含む)及び取り組みの改善・充実 ・個別の支援計画及び指導計画の作成と特別支援教育の研修実施 ・SC及びSSWやSSF及び教育関係機関との連携	・特別支援教育コーディネーター ・特別支援教育担当
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○立腰教育の充実	○立腰教育の充実 ○無言掃除	○「立腰の声がかかる場面では、正しく立腰している」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上 ○気持ちのよいあいさつができています」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上、保護者80%以上 ●「無言掃除が心の成長につながっている」と回答する生徒の割合80%以上	・「みんなで立腰」の実施(朝、授業・掃除・帰りの会・集会前) ・立腰集会の実施 ・あいさつ、返事、後始末の徹底 ・無言掃除への意識向上のための掃除集会や職員研修の実施	
○生徒会活動の活性化	○生徒会の活性化及び生徒の出番・役割の創出と承認	○AJISAI運動「気持ちのよいあいさつ」や「学校や学級、友達のために役に立っている」と肯定的に回答する生徒の割合を80%以上	・AJISAI運動を意識した各校務分掌からの積極的アプローチ ・生徒会本部及び各部の活動の活性化 ・自己有用感や自己肯定感を高めることを目的に生徒の出番や役割の創出	・生徒会担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育